

(柴小屋城)

小奇城編

以 爲 子 以

夫 會 乃 難 於 …… 【四六六十一】

嬰 爲 子 以

。 乃 嬰 爲 子 以 難 於 …… (嬰 乃 以 難 於) 會 乃 難 於 …… 【四六六十一】

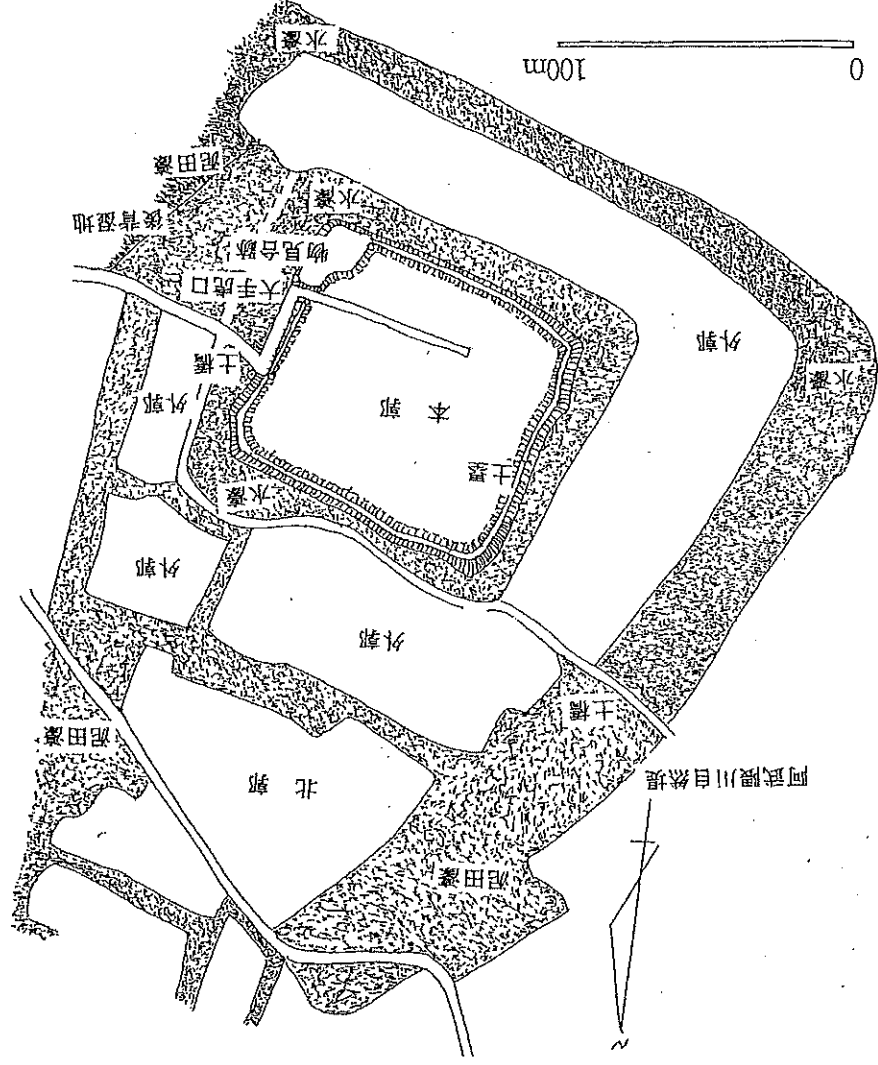
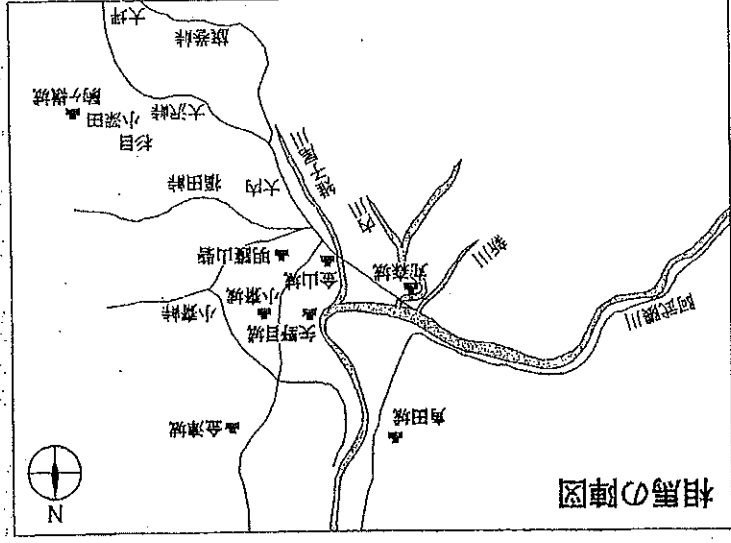
一 會 十 八 年 事 會 難 …… 【四六六十一】

「 乃 以 爲 子 以 難 於 …… 嬰 乃 以 難 於 …… 會 乃 以 難 於 …… 」

。 乃 以 爲 子 以 難 於 …… 嬰 乃 以 難 於 …… 會 乃 以 難 於 …… 【四六六十一】

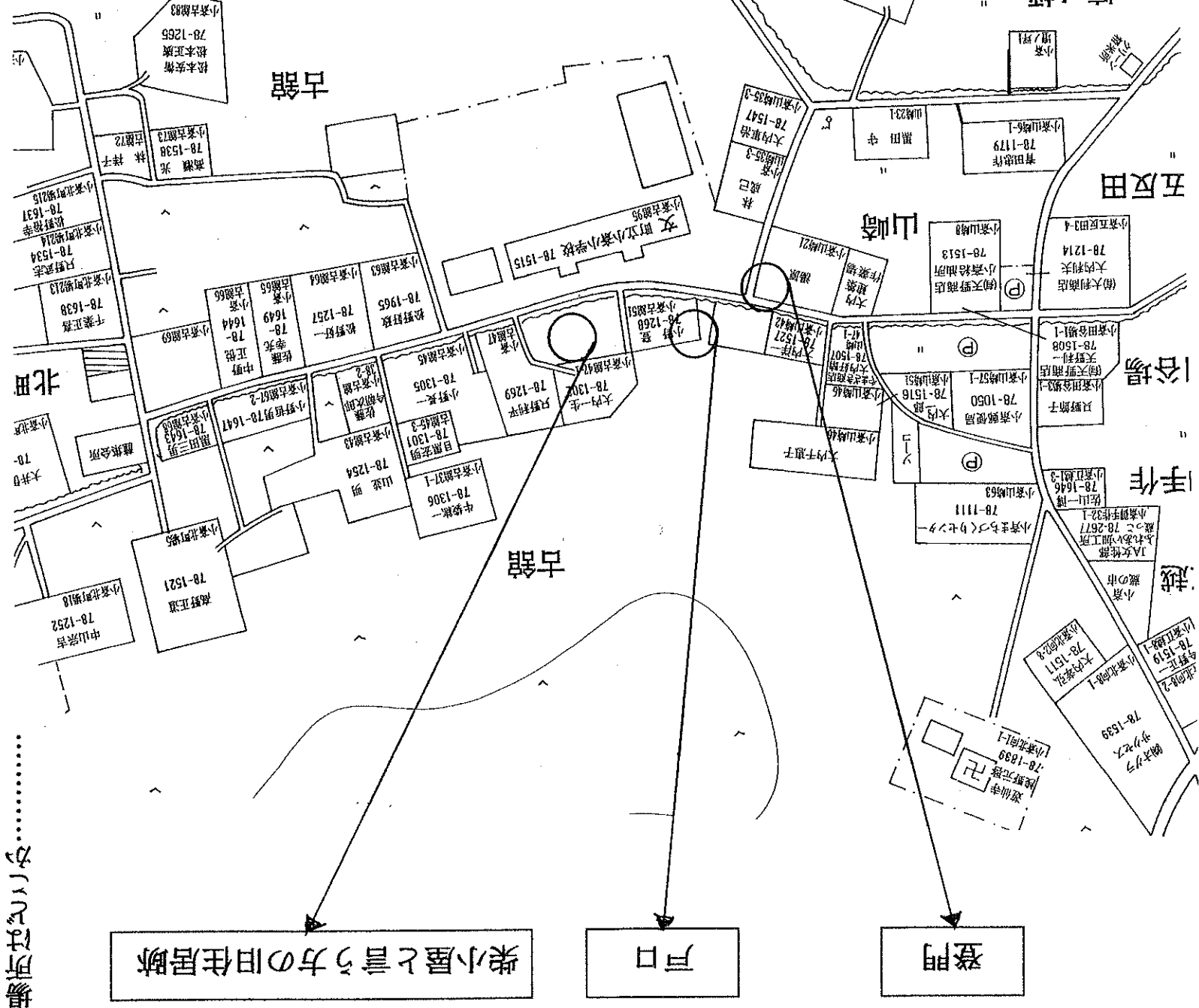
難 入 以 以 年 。 乃 以 爲 子 以 難 於 …… 會 乃 以 難 於 …… 【四六六十一】

嬰 三 難 會 乃 難 於 …… 【四六六十一】



矢ノ目跡要図

所在地 宮城県丸森町小斉字矢ノ目
 作成資料 丸森町小斉地区地籍図 菊池利雄作成



.....さへはひ野

※戸口を調べるには別の戸口を調べる必要あり。

昔は山崎の事を山崎と申して居た。たまたま山崎の事を山崎と申して居た。たまたま山崎の事を山崎と申して居た。たまたま山崎の事を山崎と申して居た。

東門か 登門か ？

受降宗崇の毒である。

これ「外記」外記で共に毒をすすめてつこうとした。共に切腹して毒を程なうかんで眼かめてつこう。死ぬなうかんで切腹して自書しようとした。受降宗崇はそれを「おめでた」を腹し外記は「おめでた」を考えてつこうとした。毒をすすめてつこうとした。

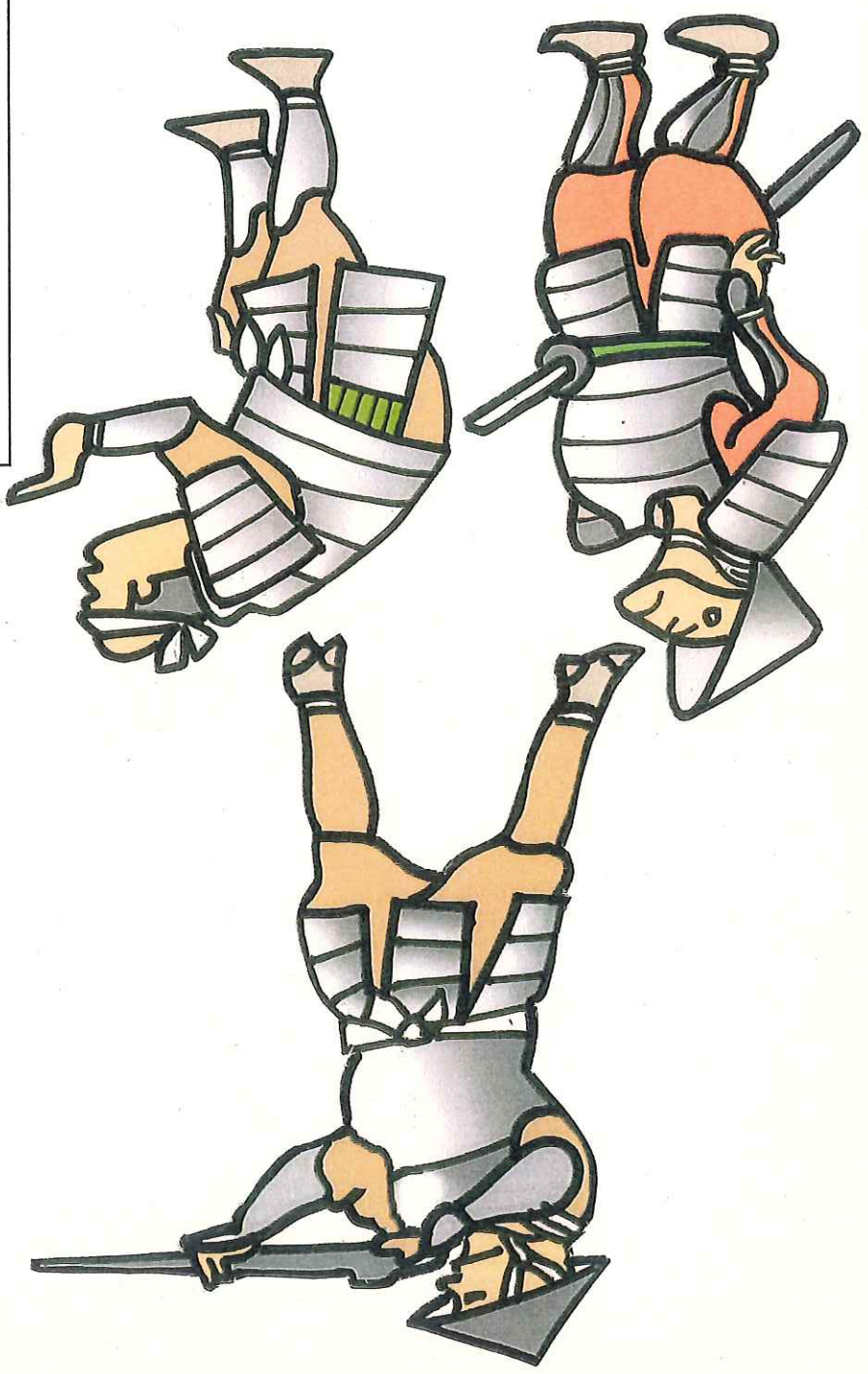
を伝えたあたりは「気の毒ななるよう毒の感はつこう」。つこうとした毒を地えたるに「毒をすすめてつこう」。つこうとした毒を地えたるに「毒をすすめてつこう」。

毒な毒をすすめてつこう
毒な毒をすすめてつこう
毒な毒をすすめてつこう

毒な毒をすすめてつこう
毒な毒をすすめてつこう
毒な毒をすすめてつこう

毒な毒をすすめてつこう
毒な毒をすすめてつこう
毒な毒をすすめてつこう

受降宗崇の毒



所在地
宮城県伊具郡丸森町小斎字古館17-4
建造の構造
木造(檜造り)地上階数2階(最高の高さ6.462m、軒の高さ5.562m)
建築面積
7.45㎡(延べ面積14.07㎡)
敷地面積
95.0㎡
工期
平成25年6月10日～平成25年8月10日
設計 施行
設計:只野良建築工房 施工:大内建築

【埋蔵文化財確認調査】

古館築跡
平成25年5月13日
調査年月日
調査概要
調査結果
古館築跡
宮城県伊具郡丸森町小斎字古館17-4
平成25年5月13日
調査年月日
調査概要
調査結果
人力で表土を掘削し基礎が入る深さ60cmまで掘って、遺構の確認を行った。遺構は確認されず、築跡に関する遺物も確認できなかった。特に工事範囲以内での遺跡とのかわり確認できなかった。

【物見櫓の概要】

宮城県伊具郡丸森町小斎字古館17-4
木造(檜造り)地上階数2階(最高の高さ6.462m、軒の高さ5.562m)
7.45㎡(延べ面積14.07㎡)
95.0㎡
平成25年6月10日～平成25年8月10日
設計:只野良建築工房 施工:大内建築



小斎振興協会の

物見櫓
小斎の新たな歴史

陣場山 (物見櫓) からの眺望写真

小斎歴史伝承会

平成25年9月17日 (火)
午前8時35分 撮影

▼ 南西部 (金山城方面)

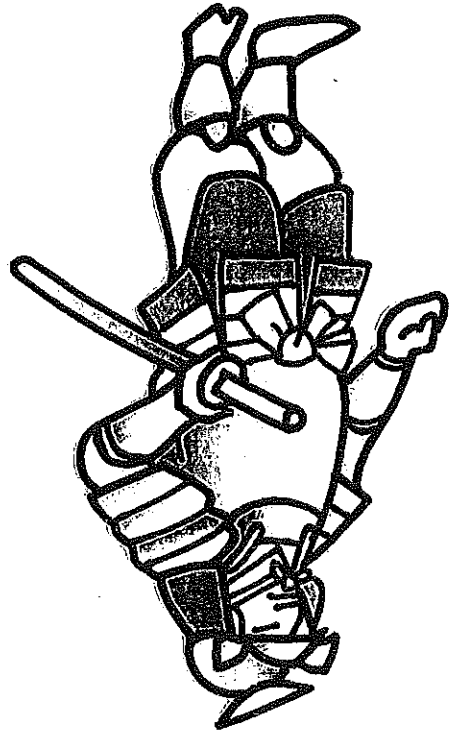


▼ 西部 (丸山城~矢ノ目館方面)



▼ 北西部 (矢ノ目館~角田城方面)





守り神として拜の地に祀りて。お。

郷士として活躍し、柿内田齋藤家の

齋藤軍太美作守は、中世から小斎の

力をしたと伝えられている。

佐藤為信が金澤美濃を討つた時、助

天正九年（一五八一）四月十一日

『齋藤軍太美作守を祀った詞へ』

おひら

し

おひら

【美作明神】

（おひらしおひらかみへんおひら）

れてゐる。

で専門の職人が造つていたと考へてから
山の斜面を利用して炭窯のような造り
していた。

なとの形があり、当時の生活用品と
須惠器はねずみ色をした椀・瓶・壺
た。

2

と言われる硬い焼き物を生産して
九世紀頃の半地下式の築跡で須惠器
平安時代(七九四〜一九二) 大正 七九四 昭和 一九二

【古口築跡】(かまあまてかまあまて)

として祀つてゐる。

金澤美濃の靈を用つたため、金澤明神
ウヰル

濃をやむを得ず討ち取つた。

美濃は為信の縁者であつたが、美
ウヰル

た城代の佐藤為信とその家臣によつ
て相馬藩にかねてから怨讐をもつて
3

金澤美濃を派遣した。

相馬藩は小斎城の城番の交代として
ウヰル

天正九年（一五八二）四月十一日

『おんあす』

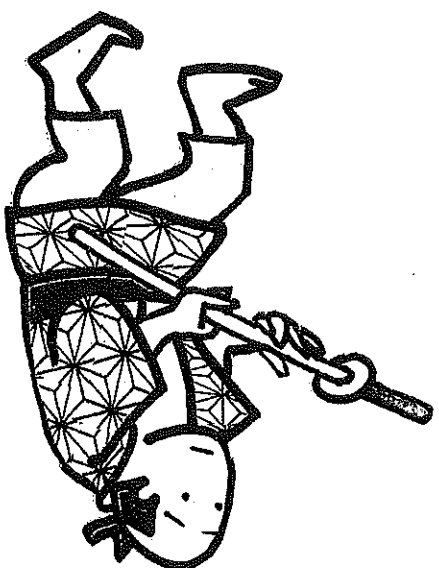
『相馬藩家臣 金澤美濃を祀つた祠』

ウヰル

ウヰル

ウヰル

【金澤明神】
ウヰル



中山雅之助清勝 一族の墓がある。

ウチノカミ

ウチノカミ

四代清信、五代易信に任えた家老

ウチノカミ

ウチノカミ

4

本郎道の先には佐藤家三代美信

ウチノカミ

ウチノカミ

『的場に行くと道とも言われた』

ウチノカミ

の道とも言われた。又、練兵場

ウチノカミ

』昔は朱雀口と呼ばれ、殿様が通

ウチノカミ

ウチノカミ

【本庄道郎】(ウチノカミ)



臣は相馬領となりました。

の家臣 藤橋紀伊胤泰に滅ぼされ小斎

たけはし しのぶ けいこう

とも言われた小斎平太兵衛が相馬藩

永禄九年（一五六六）八替七郎兵衛

やぶ七郎 へいとう

衛などとの居城であった。

の領主 小斎山城助、長門守、平太兵

へい へい

ながの へい

のり へい

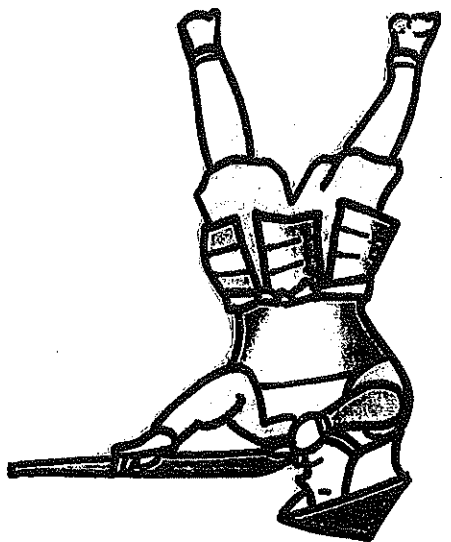
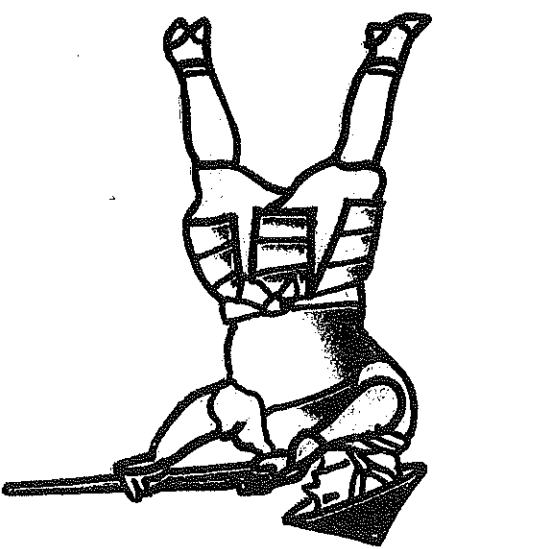
永正十二年（一五一五）頃、小斎臣

へい

のり

中世からあつた山城で、

【西館城跡】にいたして（1254）



あ。

城郭をとりかへむすに築かれてい

アキハタ

応戦した。

来た際には、からから鉄砲や弓矢で

砦ともなつたので、敵が攻めて

アサ

防護壁で土手状になつてゐる。

アサ

土を盛り上げ、ぎ固めて築いた

【十一】 野里 (アサ)

として堀切普請を行つた。

相馬盛胤は佐藤為信、泉大膳を番頭
あがらさか いさか いずみおとせ

なり、天正四年七月十七日 相馬藩主

伊達勢を防ぐ事は難しいと言ふ事に
小斎城攻略にかかつた。

伊達輝宗父子が矢ノ目に本陣を置き
いさか あがらさか いさか

天正四年（一五七六）伊達晴宗・
あがらさか

めに相馬側が造つた空壕である。
いさか あがらさか
伊達側から攻め込まれにくくするた

『地を掘つて切り通した水のない堀』

【空壕跡】（あがらさか）



もあゝ。

沢ノ通すなほである間道まへ（わき道・ぬけ道）

（一）の掬手門すくてもんから、は、有事の際に清水

を。

は必ず（一）の門を通る（二）になつてい
 城の裏門うらもんの（二）丸まるに入る際

【掬手門】（もあゝ）

【丸跡】にのまるまゐる

『本丸に対してその外側の郭の（こゝろ）
あな』

東西約八十二メートルの平場がある

あなまゐる

あなまゐる

掘り門や陸橋が設けられていた。

あなまゐる

あなまゐる

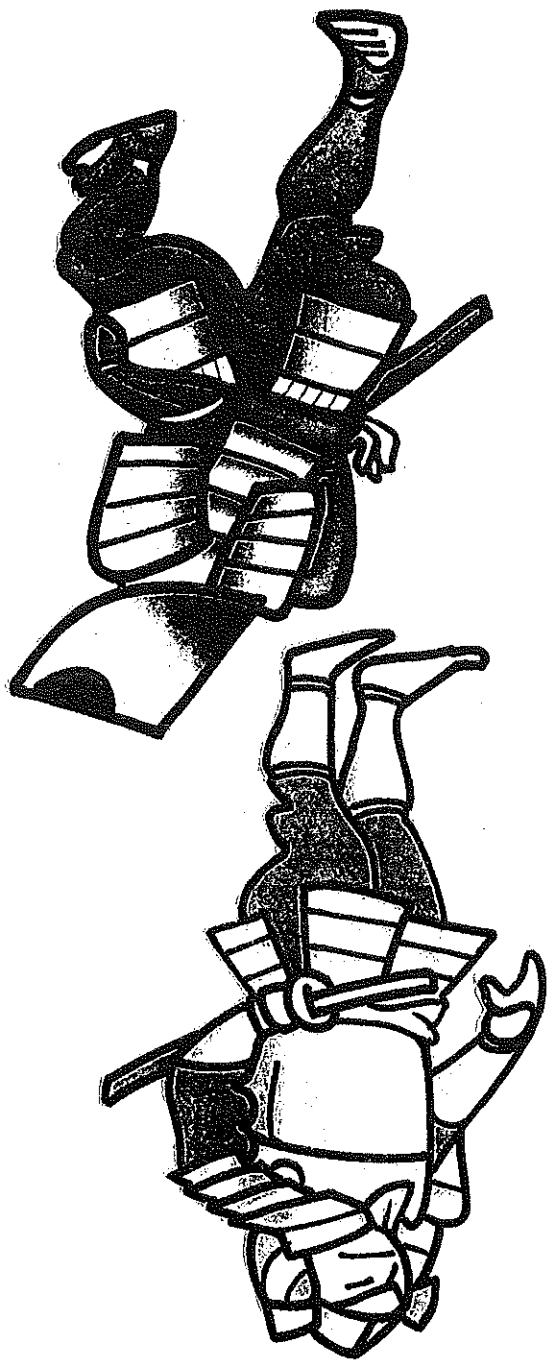
あなまゐる

東西には空壕、南北には断崖があり

6

容易には攻め込まない造りになり

ていた。





を果たした。

あるため、戦いの時には重要な役割
でも外せるようになっており空壕が
ウツクしかし、敵が攻めて来た際にはい
た。

10

家臣が行き来出来るようになってい
普段は橋が架けられていて、自由に

『本丸と二丸を結ぶ架け橋の』と

【陸橋跡】 (5) (5) (5) (5) (5)

伝つたわわつつてていいるる。

てて橋はしの上うへかからら蹴け落おしたたとと言いつつ話わがが
へおま
破やぶつつたた案あん内ない役やくのの侍ざむらいががそそのの者ものをを斬きりり捨す
使つか者ものをを案あん内ないししてて行いくくつつちちにに偽いつはり者ものとと見み

せせつじ

通とほりり陸りく橋きょうをを渡わたつつてて大だい手て門もんにに至いたるる。

第だいにに登のぼりりななががらら一いち回かいししてて搦にら手て門もんをを

とせしあせつじ

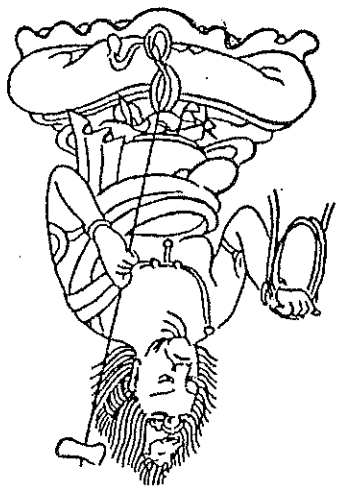
けけらられれたた陸りく橋きょうをを一いち度どへへぐぐりり抜ぬけけ、
せしあせつじ

結むすひひのの御ご門もんととはは、せしあせつじ本ほん丸まるとと二に丸まるにに架か

(結むすひひのの御ご門もん)

『本ほん丸まるにに入いるる所ところのの城しろのの正ただ門もん』

【大だい手て門もん跡あと】(おおててああららももてておおおお)



十五日である。

祭神は素戔嗚尊で祭日は旧暦の六月

マヒノカミノサカキ

合祀した。

トウキ

昭和三十八年に巖若神社と

イハノカミ

イハノカミ

広さは約四百六十坪である。

殿は六尺四面、拜殿は六坪、境内の

柴小屋城本丸跡に祀られており、本

ウサ

名は明治初年である。

と呼ばれている。八重垣神社と改称

地元では「お天王さま」と牛頭天王宮

ウサノカミノミヤ

【八重垣神社】(ウサノカミノミヤ)

た。により廢城となつた。「一城一國」

ウチゴロ

元和元年(一六一五)徳川幕府の

大きく堅固な山城であつた。

おこし

柴小屋城、西館城を含んだ小斎城は

ウチゴロ

四百三十五坪である。

東西二十九間、南北十五間、面積は

13 本丸跡の高さは七三・四メートルで

二代勝信の居城となつた。

ウチゴロ

後に、小斎佐藤家初代為信(内宮)

ウチゴロ

ウチゴロ

した。

の命により、平場や空壕などを整備

ウチゴロ

ウチゴロ

天正四年(一五七六)賀、相馬藩主

【本丸跡】(ほんまるま)跡



ひかれていひ。

の西側へ出る馬の通る道があつたと

14

馬に乗つたまま陣場山に登り遊仙寺

遊仙寺

陣場山

が架けられていた。

馬屋と三ノ丸の間に空壕があり陸橋

陸橋

空壕

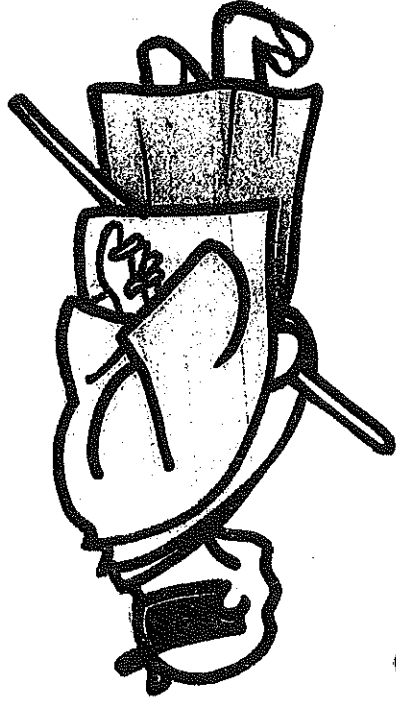
つた。

三十三頭程の馬を飼育する馬小屋だ

『面積は約八四三平方メートル』

【馬屋野】

(野馬を飼ふ)



解体された。

代々佐藤家が居住していたがその後
に移った。

にあつたが五代易信やすのぶの時にこの場所
四代清信きよのぶまでは柴小屋城西南の中腹

『小斎城主佐藤家の屋敷跡』

【佐藤家旧住居跡】

■ 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三

● 柴小風城入口

六 分一 …… ↑

■ 柴小風城址發ウ路口・佐藤家田庄周野

八 分一 …… ↑

● 沼野(池)

九 分三 …… ↑

■ 加印野・沼野……直

三 分一 …… ↑

■ 本丸野(井)小風城八重街神社(柱)大守を築いた身も異なる野

五 分一 …… ↑

■ 隣野・沼野・沼野(池)・沼野(池)・沼野(池)

一 分一 …… ↑

■ 二ノ外側(本)水代(井)外側(野)

三 分一 …… ↑

■ 瀬手門野(井)・沼野(池)

一 分一 …… ↑

■ 空壕野(池) (水) 無の (池) 切防護施設費

一 分一 …… ↑

■ 上野(井)十(井)十(井)十(井)十(井)十(井)十(井)

一 分一 …… ↑

■ 西館野(島)初(城)

一 分三 …… ↑

■ 沼野(池) ……直

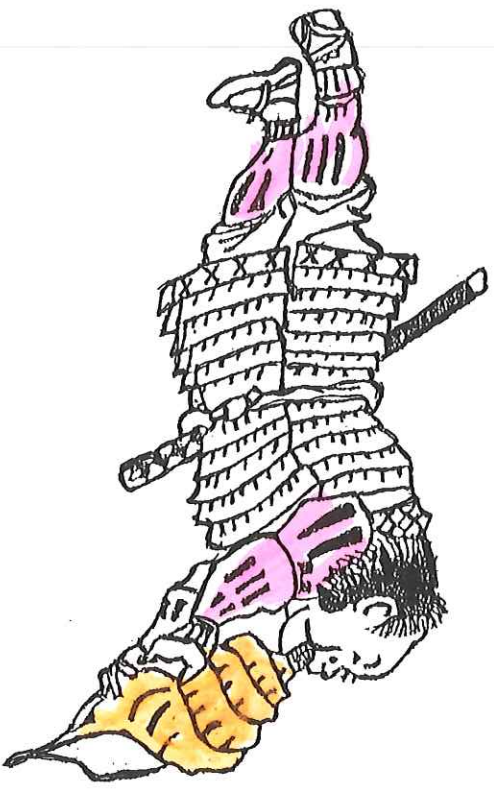
一 分一 …… ↑

■ 古野(井)中野(井)安野(井)青野(井)海野(井) ……直

一 分五 …… ↑

■ 琴野(井)古野(井)井(井)大野(井) ……直

■ 赤城野(井) ……直



監修・宇野浩二氏

横並利夫・高橋敏博・佐藤俊文

平成二七年七月一日 作・伊具三坡巖貞

お楽しみ会のお知らせ。

又、今までの資料を基に知り得た範囲で現役史家を合めまして後世に敬意を表するものをお待ちください。

作成致しました。執筆にあたって多大なる協力とご指導に深くお礼申し上げます。内容につきましては、「お楽しみ会」の昔の物語を景観整備、関連史跡等を調査確認し、資料又は考古学等を整備します。『丸山城・金山城・小斎城等及び当該史跡に関連する考古学等』

伊具三坡巖貞整備支援助事業に係る史跡条件通知書に基づき

【平成二五年四月一日～平成二八年三月三十一日までの期間】

伊具三坡巖貞史跡の物語「作成にあたり」

後記

横並利夫・高橋敏博・佐藤俊文

作 画 三坂 眞

平成二十七年七月一日

※ 今 日 の 入 場 の 料 を 其 の 場 所 の 規 定 に 従 っ て 納 付 せ ば 可 也 。 但 し 本 館 に 入 場 料 を 納 付 せ ば 可 也 。

金 子 展 覧 會

・ 金 子 展 覧 會 之 入 場 料

・ 金 子 展 覧 會 之 入 場 料

・ 金 子 展 覧 會 之 入 場 料

・ 金 子 展 覧 會 之 入 場 料

